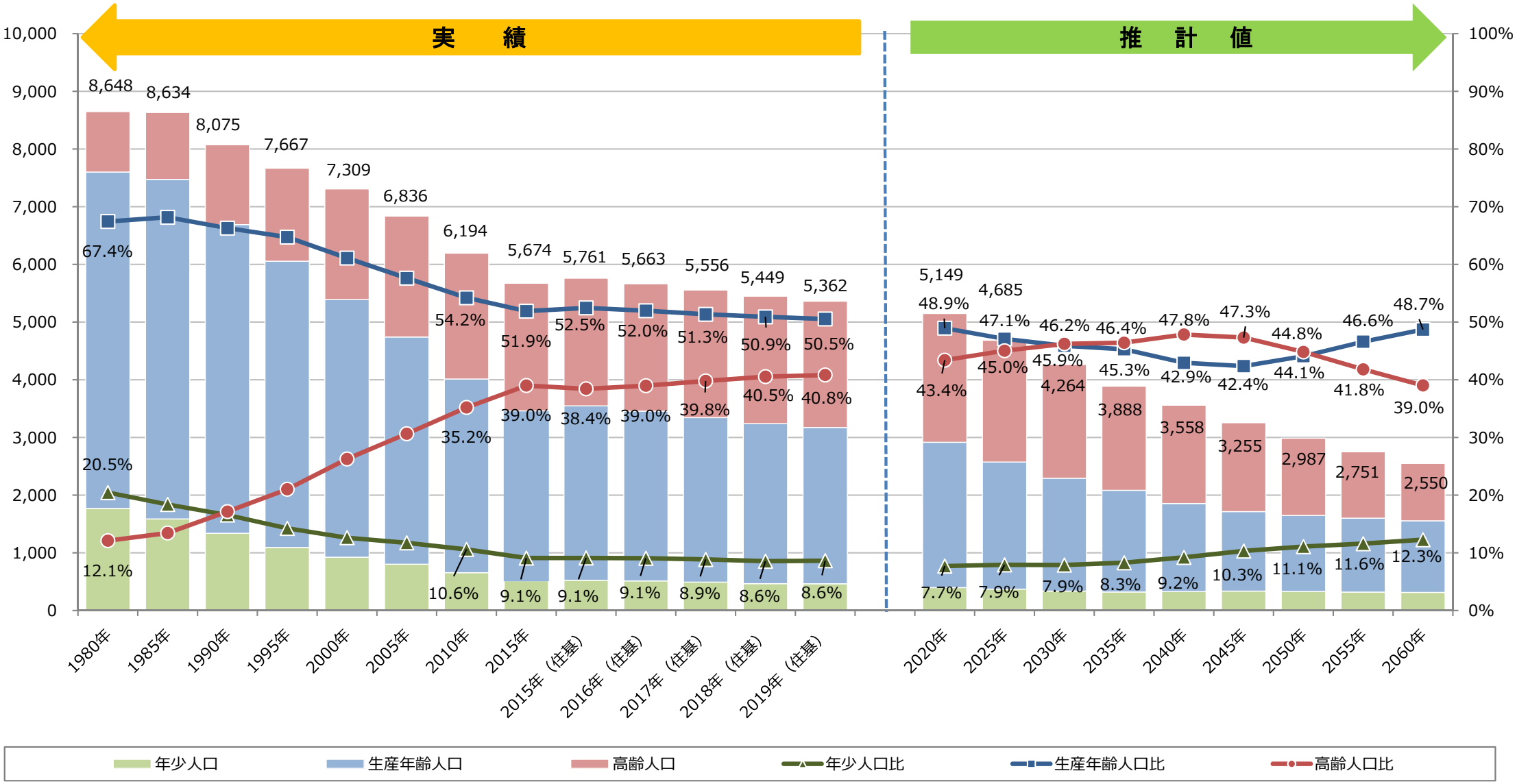
奈井江町の人口動向

総人口の推移

2015年（平成27年）国勢調査の総人口は5,674人、前回調査（2010年）と比較すると△520人（△8.4%）となっており、住民基本台帳の実績から推計する2020年国勢調査人口は、国勢調査人口より住民本台帳人口はこれまでの実績から100人程度多い傾向があること、また、毎年100人程度の人口減少があることから、2020年推計人口は、5,162人程度と推計しています。

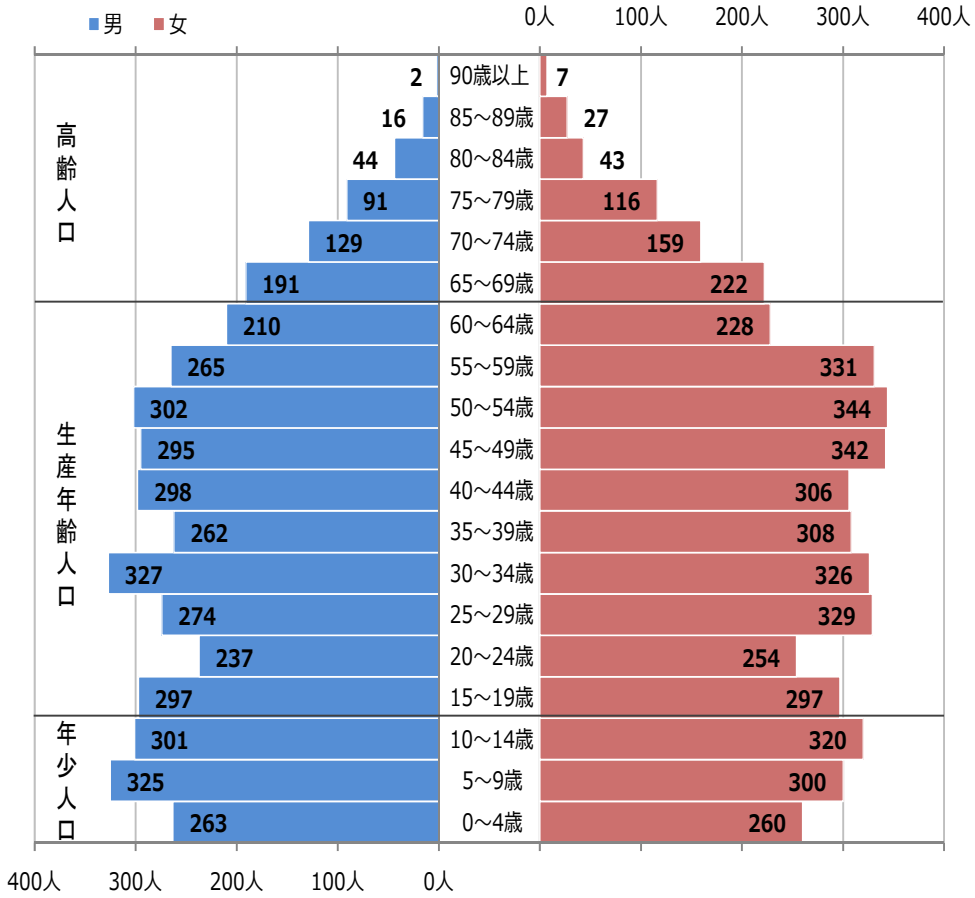


（出典：住民基本台帳、国勢調査、奈井江町人口ビジョン）

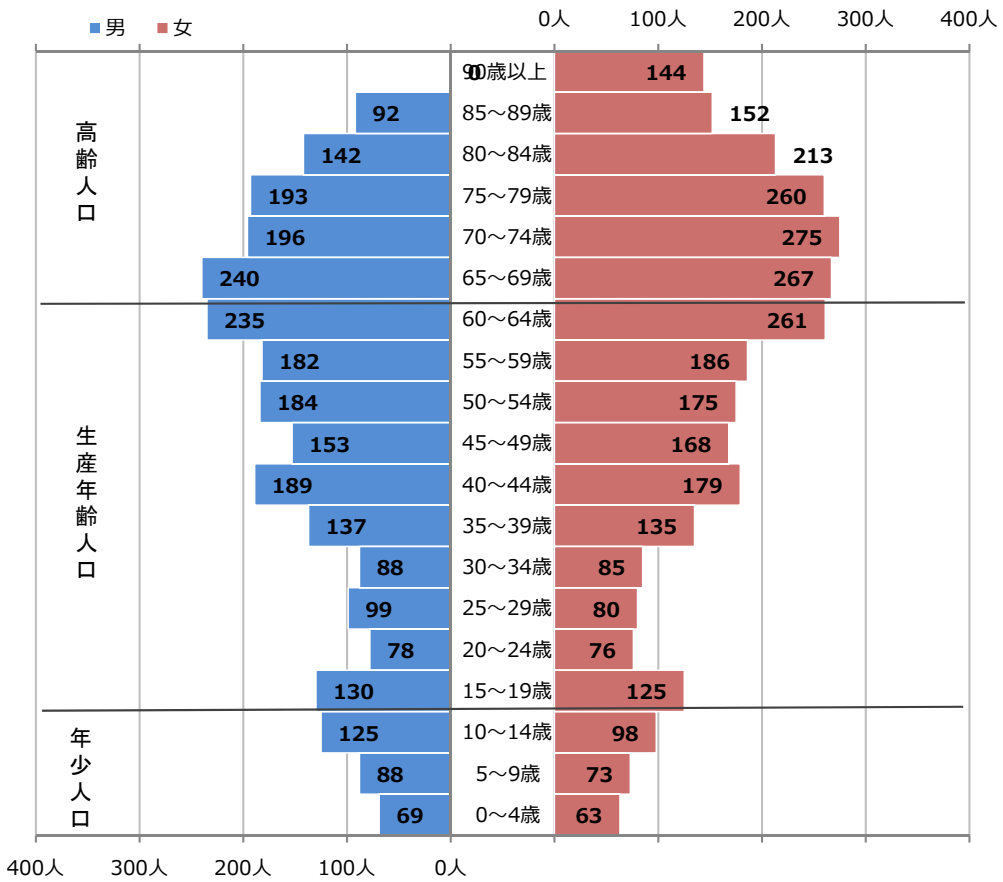
人口構成の変遷

人口構造の変化をみると、1980年（昭和55年）にはいわゆる団塊の世代が30歳代で、その子世代（団塊ジュニア）も5～14歳を中心に多くなっていました。同時に20～29歳の社会的自立期の年代（特に20～24歳の男性）が少なく、町外へ多くの若者が流出していた状況がうかがえます。一方、2015年（平成27年）では、団塊の世代が高齢人口の区分となり、人口構成からも少子高齢化のピークを迎えていることがわかります。

【1980年（昭和55年）】

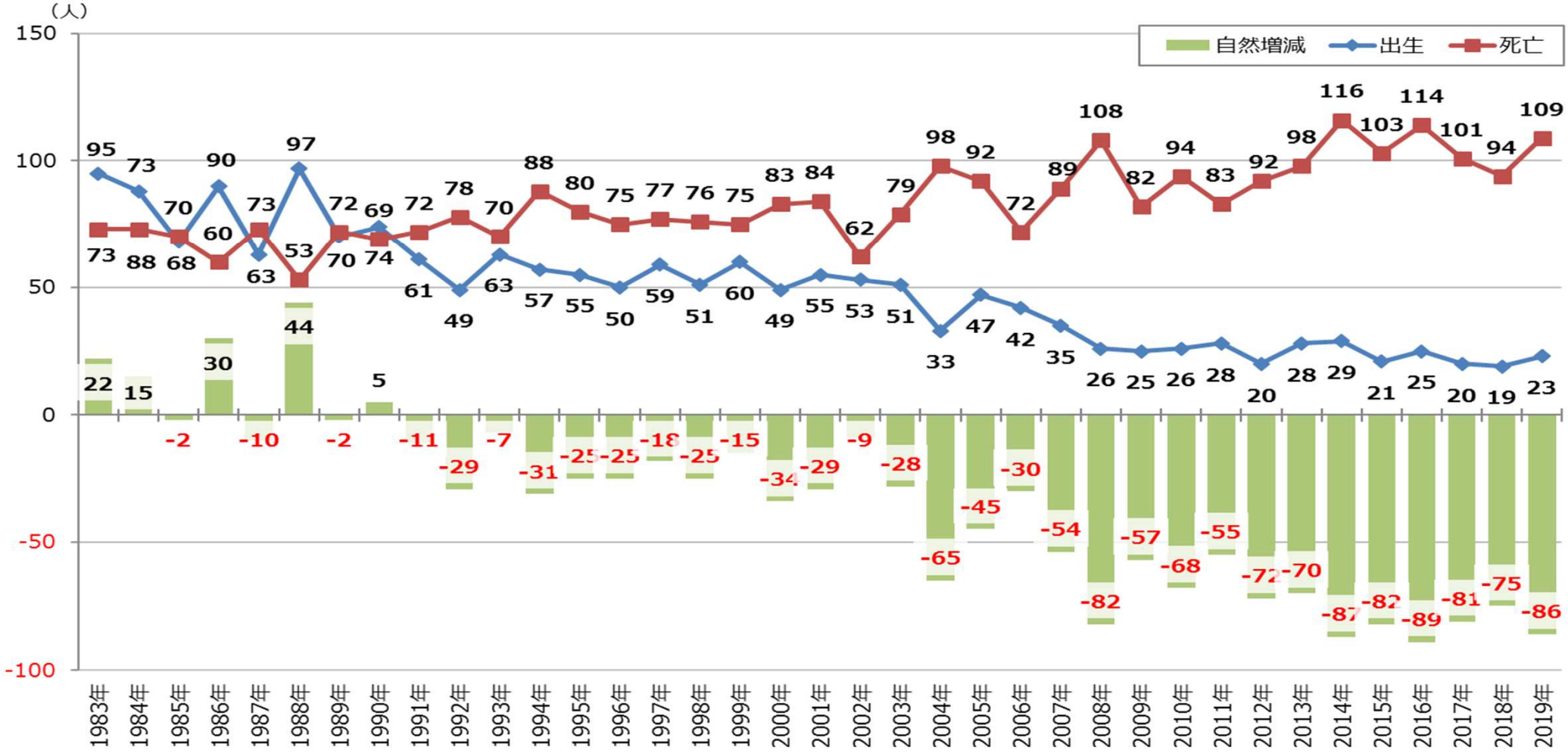


【2015年（平成27年）】



出生・死亡（自然増減）の推移

奈井江町の自然増減（出生数－死亡数）については、1991年（平成３年）以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いており、特に2004年（平成16年）以降は、減少幅が大きくなっており、高齢化率が30%を超えた時期とも重なり、高齢化の進展に伴い、死亡者数も増加していったことがわかります。

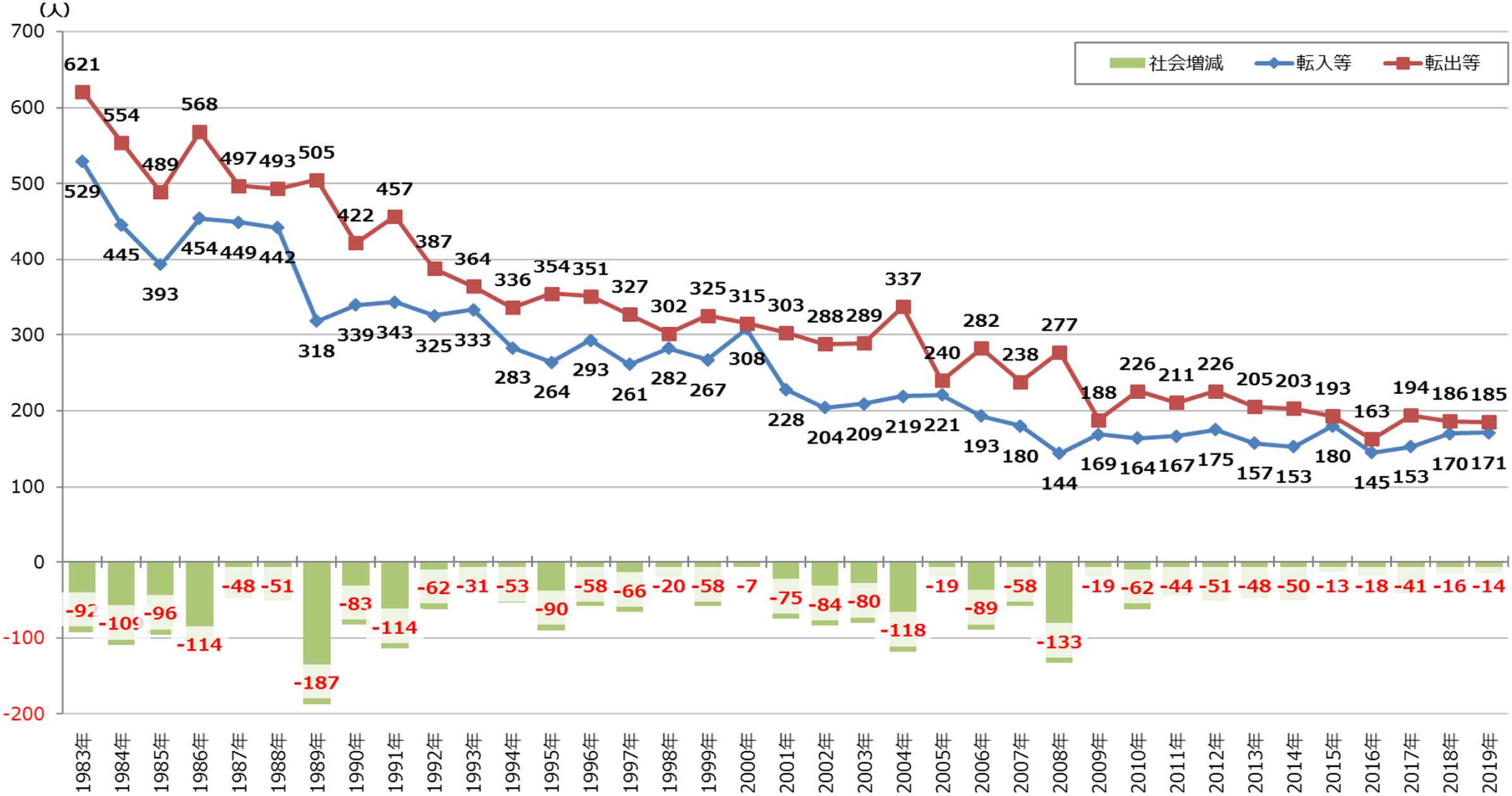


（出典：1983～2002　空知総合振興局　空知地域保健情報年俸、2003～2017住民基本台帳）

転入・転出（社会増減）の推移

社会増減（転入者数－転出者数）については、1980年代に入ってからも、転入・転出ともに長期にわたって減少傾向が続いてきているが、2015年（平成27年）以降は、社会減が各種施策の効果により抑制傾向が現れ、社会減が平均でマイナス20人程度となっています。

また、転出者については、年少人口の減少に伴い、学校卒業時点での転出者数も減少していくことが予測され、今後は少しずつ減少していくものと思われます。



（出典：住民基本台帳）

社会減抑制の主な要因として、子育て世代の転入が伸びたことが影響していると考えられ、年度ごとの出生者数が小学校入学段階において、増加に転じている状況からもはっきりとみることができる。

●平成２２年度～平成２６年度（施策実施前）
　　出生者数に対し入学者数が同数もしくは減少している。
●平成２７年度～平成３１年度（施策実施後）
　　出生者数に対し入学者数が増加している。

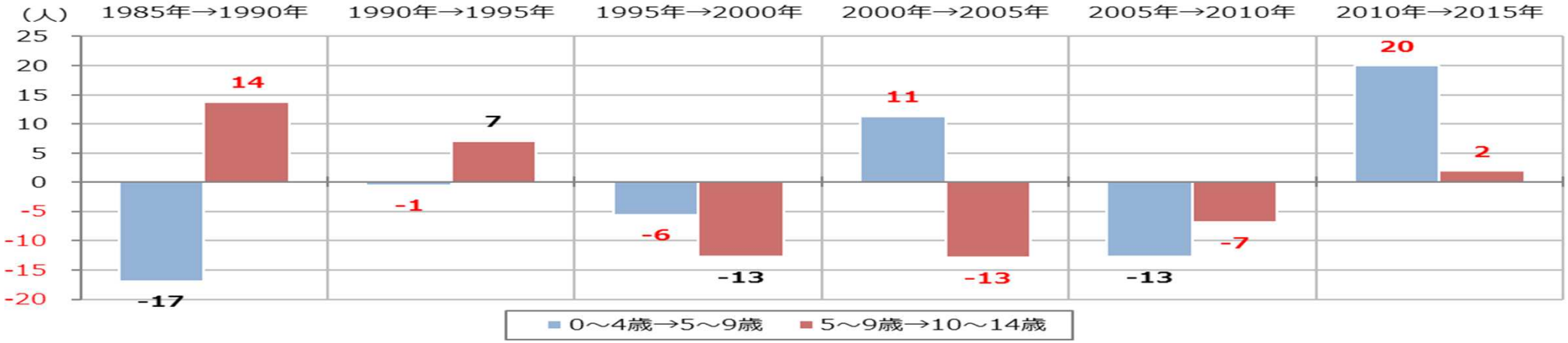
	出生者数			小学校入学者数
平成15年度	47		平成22年度	47
平成16年度	41		平成23年度	38
平成17年度	45	減少 施策前	平成24年度	39
平成18年度	37		平成25年度	30
平成19年度	37		平成26年度	33
平成20年度	24		平成27年度	32
平成21年度	29		平成28年度	32
平成22年度	22	増加 施策後	平成29年度	37
平成23年度	23		平成30年度	25
平成24年度	17		平成31年度	26

年齢区分別純社会移動数の推移

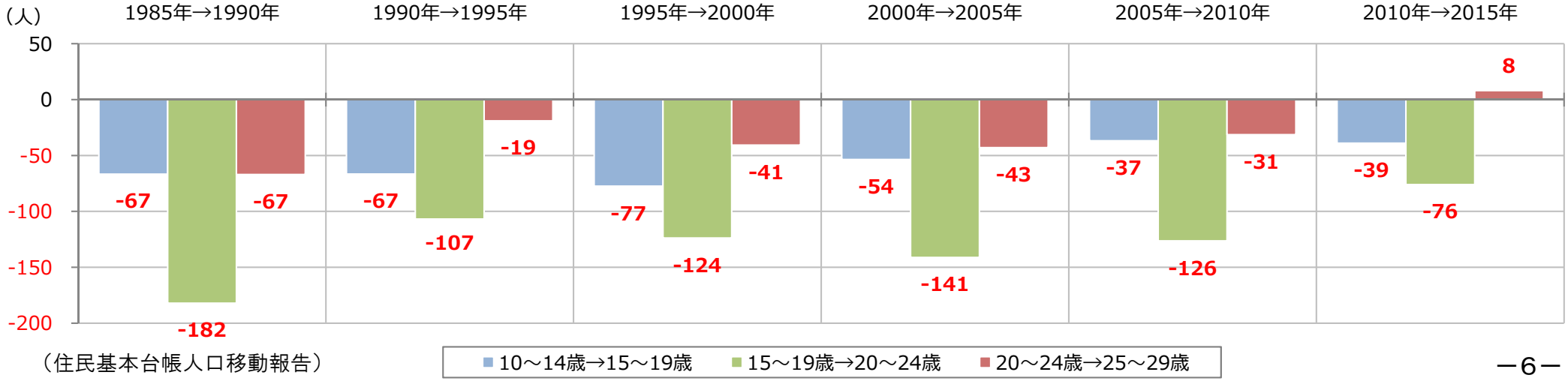
年齢区分ごとの純社会移動を見てみると、年少期では、過去の実績は転入・転出ともにばらつきがあり、傾向が読みづらい状況ですが、2010年～2015年の状況をみると、1995年からマイナスが続いていた期末年齢10～14歳がプラスに転じ、5～9歳は大幅にプラスになっています。ここからも子育て世代の転入が増加したことがわかります

また、社会的自立期では、期末年齢15～19歳、20～24歳、25～29歳のほとんどがどの年も転入よりも転出が大きく上回っていますが、2010年～2015年の期末年齢25～29歳においては、プラスに転じ、近年にない状況がみられました。

【年少期（0～9歳→5～14歳）】



【社会的自立期（10～24歳→15～29歳）】

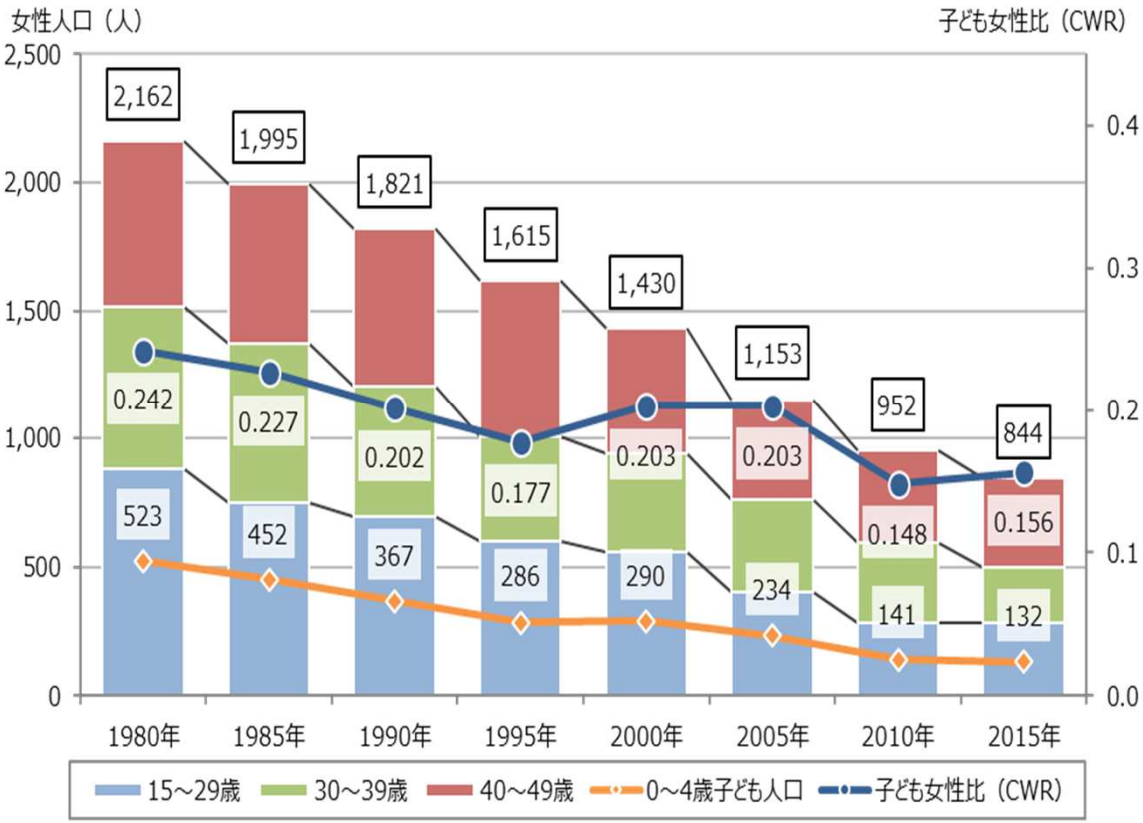


（住民基本台帳人口移動報告）

子ども女性比の推移

奈井江町の15～49歳の女性人口は、1980年から2015年（昭和55年～平成27年）までに、2,162人から844人まで減少し、さらに、同じ期間の0～4歳子ども人口も、523人から132人まで減少してきました。この結果から、子ども女性比（CWR）は、0.242から0.156まで減少していますが、各種施策の効果により2010年（平成22年）と比較すると若干改善されています。

【0～4歳の子ども人口・15～49歳女性人口の推移】



	0～4歳子ども人口	15～49歳女性人口				子ども女性比（CWR）
		15～29歳	30～39歳	40～49歳	計	
1980年	523	880	634	648	2,162	0.242
1985年	452	751	623	621	1,995	0.227
1990年	367	698	505	617	1,821	0.202
1995年	286	600	406	609	1,615	0.177
2000年	290	557	383	490	1,430	0.203
2005年	234	403	361	389	1,153	0.203
2010年	141	283	312	357	952	0.148
2015年	132	281	220	343	844	0.156

【子ども女性比（CWR：Child-Woman Ratio）】
ある時点での0歳から4歳までの人口と出産年齢（15歳～49歳）の女性人口の比率です。

（住民基本台帳人口移動報告）

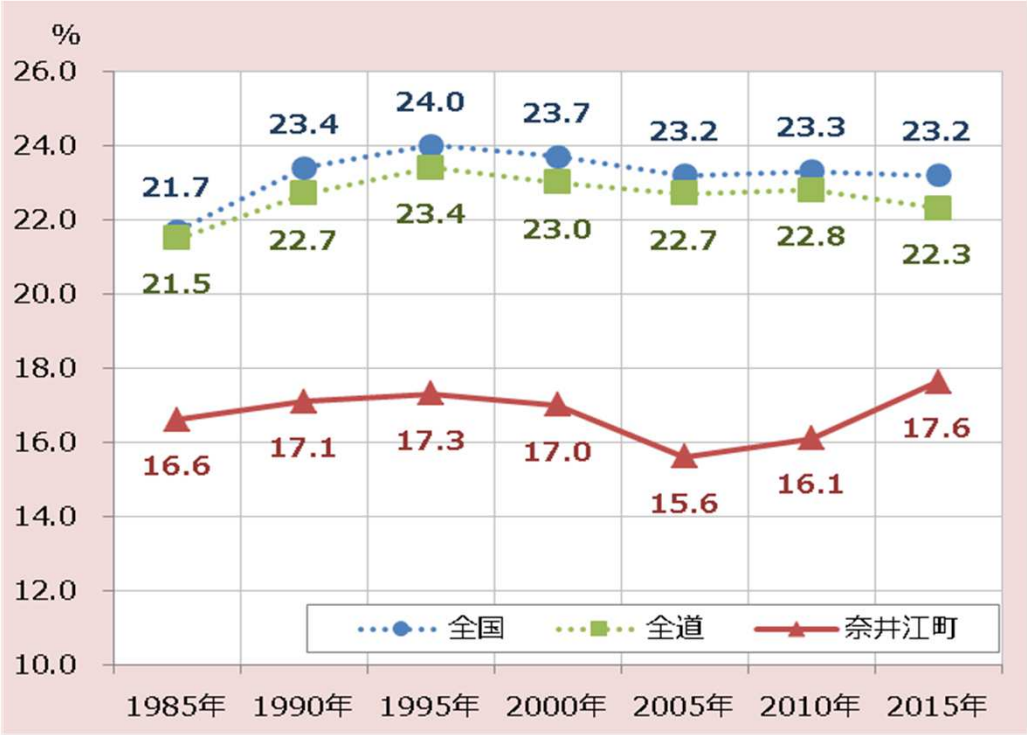
未婚率の推移

2015年（平成27年）の状況を見ると、15歳以上人口で見た場合は、未婚率は男女ともに上昇傾向が続いています。

■15歳以上の人口に対する未婚率

【男性】

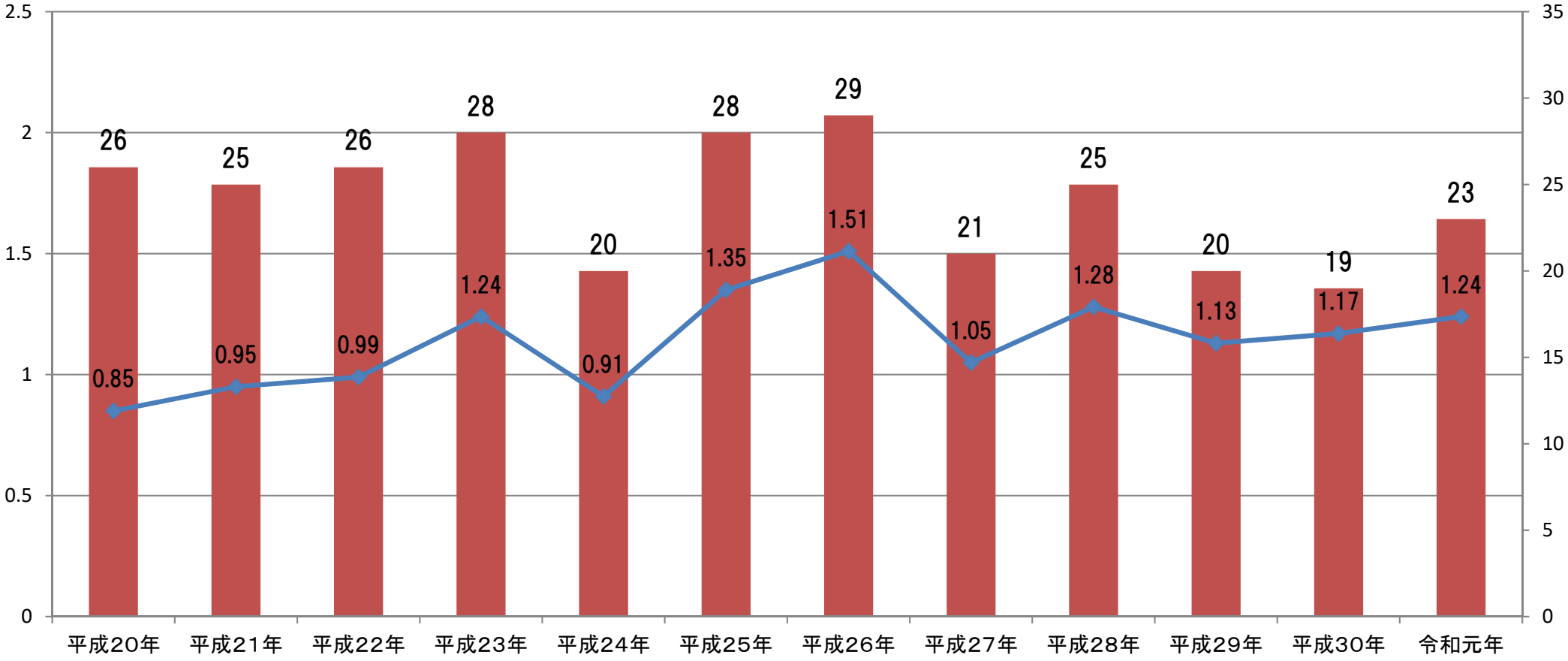
【女性】



（出典：国勢調査）

奈井江町の合計特殊出生率

奈井江町独自で算出した平成20年～令和元年の合計特殊出生率と出生数を表しています。
公表されている統計データの合計特殊出生率は、前回値（平成20年～平成２４年の平均）　1.15
奈井江町独自で算出した数値（平成20年～平成24年の平均）　0.99　⇒　1.26（平成25～平成29年の平均）
全国の合計特殊出生率は、平成３０年ベースで1.42となっていることから、依然、全国平均以下で推移しているものと推測される。
※　公表データは、ベイズ推定で算出。客対数が少ない地域は、２次医療圏の情報を加味して算出される。

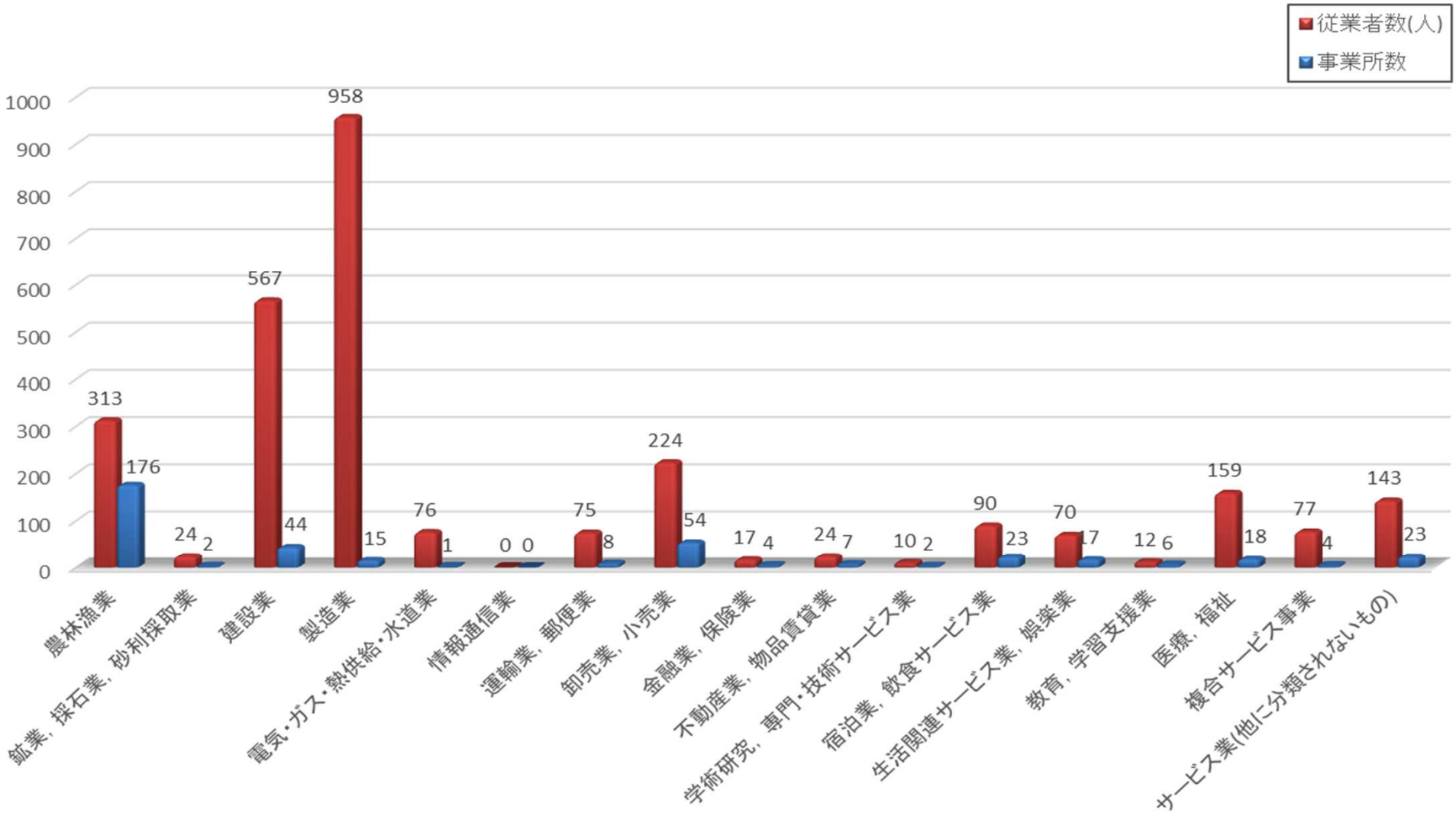


（出典：住民基本台帳）

産業分類別事業所数と従業員数

奈井江町の産業構造をみると、従業者数が最も多いのが「製造業」で、次いで「建設業」「農林漁業」が続く形になっています。

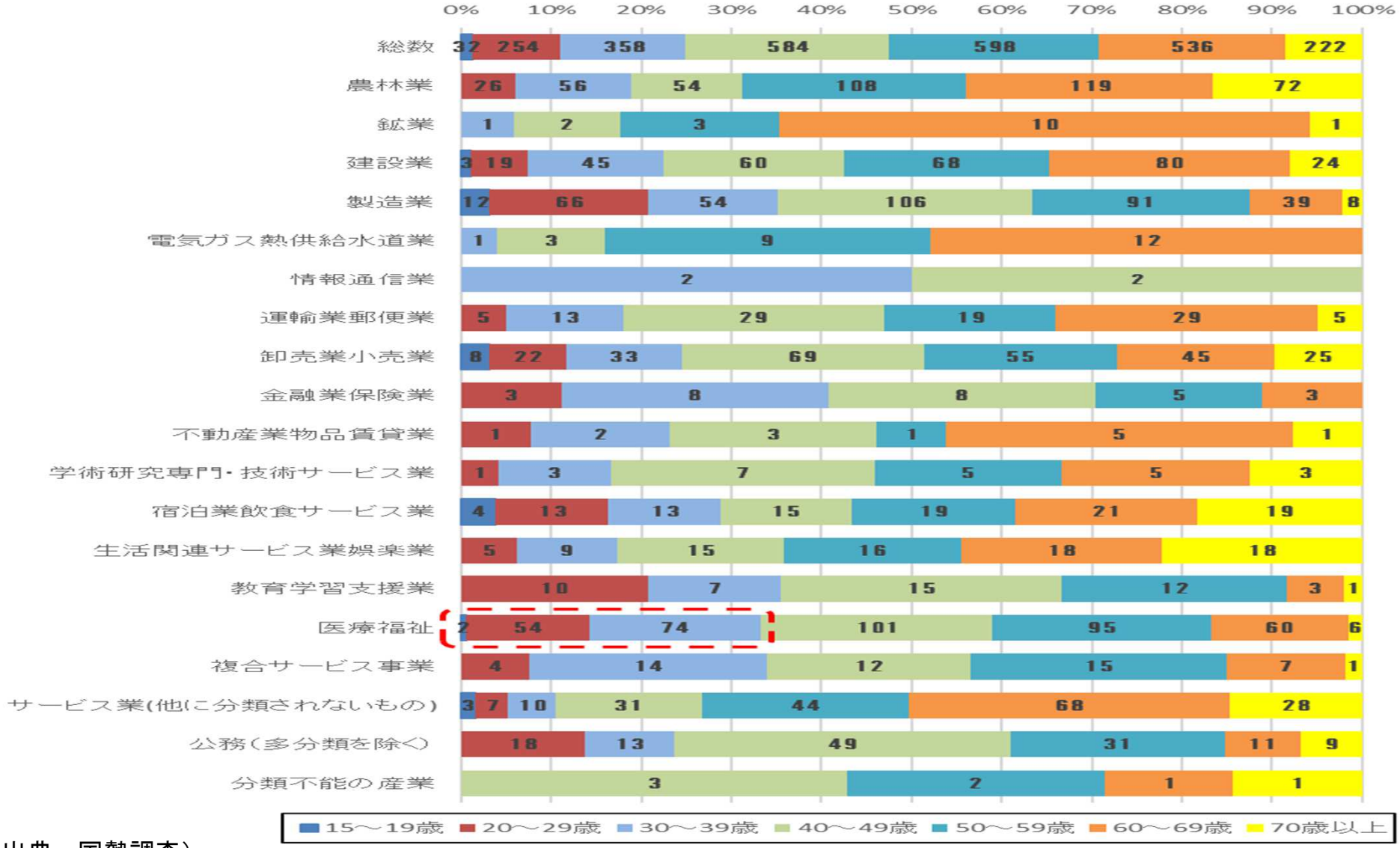
また、事業所数をみてみると、「農林漁業」が最も多く、次いで「卸売業，小売業」「建設業」が続く形となっています。



（出典：2016経済センサス、2015農林業センサス）

産業分類別の年齢区分構成比

就業者の年齢区分構成比をみると、60歳以上の就業者比率が高い産業は、「農業，林業（約44%）」で2010年（平成22年）とほぼ同じ割合で推移していますが、39歳以下の割合が高い産業となっていた「製造業」や「医療・福祉」でも若年層の割合が低下しており、高齢化が進んでいます。



（出典：国勢調査）